

# みどりかがやく

## 自らの命を自ら守る

8月21日に親子ふれあいクリーン運動が行われましたが、雨は草を勢いづけます。その後の雨で校庭の西側には野草が、たくさん生えています。やっかいなものと思うこともありますが、その生命力には驚きを感じます。その中でも目を引くのが、オヒシバとメヒシバ、そしてエノコログサです。猫じゃらしと知られるエノコログサですが、その名は犬の尾に似ていることから「犬っころ草」となり、漢字で書くと「狗尾草」で「狗（犬）の尾の草」となったという説があります。花期は7月から9月頃でよく目につきます。



校庭西側のオヒシバ、メヒシバ、エノコログサ

そろそろアキノエノコログサもでてくる頃で、よく見ると若干観察できました。アキノエノコログサは花期が8月から10月くらいまでで、エノコログサとは穂に違いがあります。エノコログサの穂が6cmくらいで立っているのに対し、アキノエノコログサは12cmと長く、垂れているという違いがあります。

昨日、9月1日は「防災の日」でした。この日が防災の日とされたのは、1923年（大正12年）9月1日に関東大震災が起こったことと、二百十日（立春(2月4日か5日)から数えて210日目の日。この頃はちょうどイネの果時期）に当たることが多く、台風の来襲する季節にあたるからです。そのため、多くの場所で災害訓練が行われます。本校では、非常時に安全な行動がとれ、自らの命を守ることができるよう、9月2日に川越中央消防署高階分署の協力により、体育館で全校生徒にDIGを実施しました。DIGとは、災害（Disaster）、想像力（Imagination）、ゲーム＝ワークショップ（Game）の頭文字をとったもので、災害図上訓練とも言われます。まず、高階西中学校通学区の地図と色付のシールや筆記用具を用意します。登下校中に地震があったという想定で、通学路や学校周辺で助けを求められそうな場所や注意しなければならない場所にシールを貼ったり、色を塗ったりしながら、地震に備えるというものです。高階分署の署員の方に指導をいただき、最後に高階分署長に講評をいただきました。

かつて阪神大震災に遭遇した生徒を担当したことがあります。当日登校した生徒は半数もいなかったということでした。東日本大震災を経験した方の話を聞いたことがあります。校舎から生徒を避難させるのが大変だったこと。その後、学校が避難所となり、生徒が地域の方を支えたり、同時に授業も行ったりしたいへんだったそうです。私自身は国道4号線を放射線の線量を図りながら通過し、被災した学校に行ったこともあります。その中で考えたことは、学校は「生徒自身が自分の命を自分で守れる方法を伝えること」が大切だということです。野草はやっかいと思えるほど強いと思うことがあります。私たちは更に強い気持ちで自分の命を守れるようにしたいものです。